

Sport for Tomorrow × Africa Action Day 2025内  
One Cup, One Action開催のご報告

作成日：2025年8月4日

1. イベント概要

【イベント名】Sport for Tomorrow × Africa Action Day 2025内 One Cup, One Action

【開催日】2025年8月2日

【場所】JICA横浜

公式イベントHP <https://afri-quest.com/africaactionday2025>

【開催の目的・背景】

本イベント「One Cup, One Action」は、さとやまコーヒーとのコラボレーションを通して、日常の一杯のコーヒーから、エチオピアのコーヒー農園のサステナブルな取り組みや、農村部での医療の課題、ガーナの母子保健や医療アクセスについて関心を持ってもらうことを目的としました。知識を提供するだけでなく、「自分にできるアクション」を考える場として、スタンプラリー・クイズ、ドリップバッグ作りなどインタラクティブなコンテンツを用意しました。

2. 参加状況

【出展団体数】8月2日 17団体、8月3日 16団体

【来場者数】(主催者発表) 8月2日 約270人、8月3日 約130人

3. 全体プログラムについて(ファッションショー、ダンスセッション、貯金箱)

ファッションショーでは、ブース出展者やイベント参加者、その子どもらがアフリカの民族衣装に身を包み、アフリカの音楽と合わせてランウェイを歩きました。普段目にする事のないアフリカの衣装で会場が華やかな雰囲気になりました。当団体からは、日本人2名、ガーナ人3名、ベナン人1名に加え、合同会社秋田里山デザイン様の大西克直氏が参加しました。

ダンスセッションでは、アフリカで日本のダンスを広めた「ごめさん」によるダンス教室に参加しました。日本とアフリカの踊りが、それぞれの国の音楽に合わせて交互に紹介されていました。ガーナ出身のフローレットは、初めて踊る日本風の踊りに、興味深い、と感想を述べていました。さらに、ガーナ発の踊りが紹介された際は、アレンジを加えながら、全身を使って踊りに参加していました。

4. Reaching Zero-Dose Children出展ブースについて(内容、来場者の反応)

● 展示、スタンプラリー・クイズ

展示では、A0サイズのポスターを3枚制作し、ブース背面に掲示しました。1枚目は、今回のイベントでコラボした、合同会社秋田里山デザイン様が担当しました。環境や地域に配慮したコーヒー作りの取り組みを紹介しました。1年あたりに1つの農家が収穫できるコーヒー豆が少なく、経済的課題があることについても紹介しました。2枚目は、エチオピアの農家のエピソードと、当団体が実際にガーナを訪問した際に目の当たりにしたエピソードを融合して家族の物語をつくりました。

これらの展示と合わせて、スタンプラリー形式のクイズ企画も実施しました。内容は、コーヒーに関する3問、母子保健に関する3問の計6問で構成し、各問に正解するごとにスタンプを集める仕組みです。すべてのスタンプを集めた方は、ワークショップに参加できる特典もあり、特に子どもから大きな反響がありました。スタンプを集めたいという思いから、難しい問題にも真剣に取り組むお子さんの様子が多く見られ、大人の方々も知識を試しながら楽しく参加して下さっていました。

● ワークショップ

ワークショップでは、合同会社秋田里山デザイン様と連携し、コーヒードリップバッグのデコレーションと、挽いたコーヒーを実際に詰める体験型アクティビティを行いました。参加者は、自由に絵や文字を描いたり、マスキングテープやラメ入りのペンを使ったりして、思い思いのバッグを制作しました。特に子どもたちは想像力を働かせながら楽しんでいて、保護者や大人の来場者にも好評でした。作業中には自然と会話が生まれ、参加者同士の交流のきっかけにもなりました。

- 物販

物販では、合同会社秋田里山デザイン様のさとやまコーヒーと、ガーナ産のはちみつを販売しました。特にはちみつは、ガーナ出身のフローレットが販売を担当し、来場者に直接話しかけながら商品の背景や魅力を伝えることで、多くの関心を集めました。

## 5. 参考資料

(写真1) One Cup, One Actionブースの様子



(写真2) スンプラリー・クイズの様子



(写真3) ワークショップの様子



(写真4) 集合写真





## 6. 来場者からの声

「ブースが賑わっていたので訪れました。興味があったガーナの方々とも知り合えて良かったです。」(主催側、日本人)

「とても賑わってました。楽しかったです。アフリカの方もたくさんいましたね。アフリカの文化をたくさんの方々に知ってもらえて良かったです。」(主催側、ガーナ人)

「母子手帳が日本発祥の制度だということを初めて知りました。コーヒーバッグ作りも楽しかったです。」(参加者、日本人)

## 7. インターン生の感想

主にカメラマンとして、当日の写真や動画を撮影しました。また、受付の人数が足りない時にはクイズの説明を行ったりもしました。カメラマンをすることができたので、ブースのみならず、全体の雰囲気を感じ取ることができたり、インタビュー撮影を通して参加者の声を直に聞くことができたりして、楽しかったです。(Y.H.)

Africa Action Dayは、インターンとして6月にチームに参加させていただいてから、初めてのイベントでした。アフリカと医療をテーマにしたポスター展示やクイズを制作し、当日のイベントで、子どもから大人まで沢山の人の楽しんでいる姿を見て、とてもやりがいを感じました。(M.H.)

インターン生として、主に広報を担当し、ポスターの制作やInstagramでの投稿制作を行いました。また、当日はワークショップの運営にも携わりました。イベントをより多くの方に知ってもらい、当日楽しんでいる様子を目にしたときは、大きな達成感とやりがいを感じました。広報の工夫や当日の関わりが少しでも来場者の学びや関心につながったと感じ、貴重な経験となりました。(H.N.)

## 8. 今後に向けて

今回の「One Cup, One Action」では、コーヒーという身近な存在を入り口に、多くの来場者にグローバルヘルスや母子保健への関心を持っていただくことができました。今後は、8月20日(水)～22日(金)に開催されるTICAD9(アフリカ開発会議)でテーマ別イベントを予定しています。官民のパートナーと連携を深め、ゼロドース児の課題や国際保健分野における持続可能な支援のあり方について議論を深めていく予定です。

また、今秋には子どもや子育て世代にもグローバルヘルスに関心を持ってもらえる親子向けワークショップを展開予定です。